



“HIT®”ブランドの作業工具を供給する熱間鍛造のパイオニア

東邦工機株式会社 奈良県大和郡山市

東邦工機株式会社は“^{ヒット}HIT®”のブランド名で知られる作業工具および鍛造品メーカーで、現在、世界50か国以上の国々で同社の作業工具が使用されている。多種多様なバリエーションを誇る同社の作業工具は、「軽く（簡単に）切れて長持ち」という相反するニーズを満たすべく工夫を重ね、高品質の世界ブランドに成長。

鍛造品と作業工具の両方を製造する同社の事業領域は、あらゆる業界のモノづくりの川上から川下にまで及んでおり、様々な分野の情報をキャッチできるという。さらに長年培った海外進出ノウハウ、“HIT®”のブランド力を活かすことにより、高品質な作業工具を国内外に提供し続ける。

会社概要



会社名：東邦工機株式会社
所在地：大和郡山市小泉町2500番地
電話：0743-52-4172
FAX：0743-55-0389
創業：1926（大正15）年10月
設立：1938（昭和13）年3月
代表者：代表取締役社長 川上喜八郎
資本金：100百万円
従業員：94名（パート含む）
事業内容：HIT印 作業工具の製造販売
および輸出入各種機械工具・
鍛造品・金型の製造販売
URL：<http://www.hittools.co.jp/>



本社全景

創業90年を迎える作業工具メーカー

大和郡山市にある東邦工機株式会社は、“HIT®”のブランド名で知られる作業工具および鍛造品メーカーである。前身の川上製作所は、1926年に大阪市港区にて創業、レンチ、スパナ等の作業工具製造を開始した。1939年には東邦鍛鋼株式会社を設立し、工具鍛造及び軍需鍛造品製造も開始、戦後は厳格な米軍規格をもクリアし、一時は米軍にも製品を供給していた。

1959年に国内販売会社であるヒット商事株式会社を設立後、1965年には本格的に輸出を開始。長年培ってきた鍛造技術を武器に、大正から昭和、そして平成へ激動の時代を乗り越えてきた同社は今年創業90年を迎える。

国内外に広く浸透している“HIT®”ブランド

多種多様なバリエーションを誇る“HIT®”の作業工具は、国内だけでなく海外にも広く認知され多くのユーザーを獲得している。



“HIT®”の作業工具製品群

特に海外でニーズの高い工具が、テコの原理を利用して太い径の鋼材（ネジなど）を切断する「ボルトクリップ」だ。これは、ハサミのようにモノを“切る”のではなく、両側から押し潰して

“破断”させる工具で、刃先に大きな力を加えるため、ある程度の重量が必要となり、大きいサイズのものでは寸法 1,050mm、重量 8.6kg にもなる。

だが工具は重くすると扱いづらくなる。川上喜八郎社長（48 歳）は『「軽く（簡単に）切れて長持ち」という相反するニーズをいかに満たすかが悩みどころ」と製品開発の苦労を語る。重心の位置を工夫するだけでなく、ユーザーが心理的に軽く感じるよう色合いにまで工夫を凝らすという。

同社はこのようにユーザー目線で製品の品質を高めることにより、“HIT®”を世界ブランドへと成長させてきた。現在ではヨーロッパ、オセアニア、北米等 50 か国以上の国々で同社の作業工具が使用されており、そのブランド力は商社を介さずとも直接新規取引を可能とする程である。

なお、“HIT®”の名称の由来は、野球の中継をラジオで聞いていた創業者の川上清一氏（現社長の祖父）が「ヒット」という語感を気に入り、命名したものの。

信頼の品質を生み出す熱間鍛造技術

高強度の作業工具や鍛造品は同社の製造技術の根幹を成す「熱間鍛造」により生み出される。これは、棒状の特殊鋼（丸棒）を電気炉で 1,100～1,250℃に加熱し、金型上で空気圧を使った巨大なハンマー（エアードロップハンマー）により打鍛するもので、金属内部の空隙を潰して結晶を微細化し、結晶の方向を整えて成型することで、液状に溶融した金属を鑄型に流し込む「鑄造」に比べ、強度に優れた製品を製造できるのが特徴だ。

同社が誇る熱間鍛造の打鍛設備が 1.3～4.0 トンのエアードロップハンマー 4 機種 5 基で、高さ 5m 以上にもなる重量感のある装置だ。作業員は慣れた手つきで、材料を火鉢で掴み、次から次へ淡々と成型していくが、「装置自体への負担を極力抑えつつ、材料が熱いうちに素早く成型するため、技術習得には最低 3 年はかかる」と社長は語る。

同社では金型製作から熱間鍛造までのすべての

工程を一貫して自社で行っており、また 1 ヒート（1 回の加熱）で 3～4 工程分の金型を使い効率よく打鍛、電力消費の節約により高品質、低コスト、高効率な鍛造を実現している。

熱間鍛造は金型を変えることで多品種小ロット生産に対応でき、同社では作業工具以外にも、小型エンジンのギアやケーブル・ワイヤーの接続部品、建機部品など、様々な分野の鍛造品を受注生産している。



1.5トン エアードロップハンマー（左）と 4.0トン エアードロップハンマー（右）

モノづくりの川上から川下まで

「鍛造品と工具の両方を製造している会社はそう多くはない」と社長はいう。同社が手掛ける産業機械・装置部品等の鍛造品は、モノづくりの初期段階で必要とされる。一方、作業工具は機械・装置等の設置・加工・メンテナンスなどで必要とされる。つまり同社の事業領域は、あらゆる業界のモノづくりの川上から川下にまで及んでおり、製品の種類も多岐に亘り、かつ販路も広く海外にまで及んでいる。

そのため事業リスクが分散され、景気変動の波もある程度は吸収されるとともに、「様々な分野の情報をキャッチできる」と社長はいう。

さらに長年培ってきた海外進出ノウハウ、“HIT®”のブランド力を活かすことにより、今後も高品質な作業工具を国内外に提供し続ける。

（前田 徹、山城 満）